

高校生の「居場所」に関する調査報告書

令和6(2025)年3月

公益財団法人よこはまユース 事業課

目次

1. 調査の概要.....	3
(1)調査の目的.....	3
(2)調査項目.....	3
(3)対象.....	4
(4)回答結果.....	4
(5)期間.....	4
(6)調査方法.....	4
2. 調査の結果.....	4
◆基本属性.....	4
◆居場所について.....	5
◆家や学校以外の「居場所」となる“施設”について.....	7
◆「青少年の地域活動拠点」について.....	10
◆困ったときの対処法.....	10
◆校内カフェについて.....	11
3. まとめ.....	13
(1)高校生の居場所の現状.....	13
(2)居場所に求めること.....	13
(3)青少年の地域活動拠点の認知度向上.....	13
(4)校内カフェがある意味.....	13
(5)今後に向けて.....	14

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

今回の調査では、よこはまユースが過去に実施した「青少年の居場所に関するアンケート調査」(平成28年度実施。市内中高生対象)を踏まえ、横浜市立高校で校内カフェを実施している3校(横浜市立横浜総合高等学校・横浜市立戸塚高等学校定時制・横浜市立みなと総合高等学校)に通う生徒を対象に「居場所」と感じる場所の有無や「居場所」と感じる具体的な場所、「居場所」と感じる場所の心理的機能など、高校生が「居場所」に求めるものは何かを把握する。併せて、「校内居場所カフェ」「青少年の地域活動拠点」の利用についても調査し、青少年の「居場所づくり」の充実を図る。

■校内居場所カフェ

学校の校舎内で週一回程度、若者支援NPOなど外部団体が学校・教職員と連携して、生徒がだれでも無料で利用できる交流・相談の場として運営している

■青少年の地域活動拠点

居場所と体験機会の提供を通して青少年が自らの生き方を考え、社会参画に向かう力を育てることを目的に市内8区に設置されている

(2) 調査項目

◆基本属性(学年・通学状況)
③ 居住区 ② 学年 ③ 通学手段
◆居場所について
④ あなたが居場所だと感じる場所はどこなところですか？(複数選択) ⑤ なぜそのように感じますか？(複数選択)
◆家や学校以外の「居場所」となる“施設”について
⑥「居場所施設」にあつたらいいなと思う機能・役割について選んでください ⑦「居場所施設」はどこなところにあつたら嬉しいですか？ ⑧「居場所施設」にはどんなスタッフがいたら嬉しいですか？ ⑨「居場所施設」にはいつ行きたいですか？
◆「青少年の地域活動拠点」について
⑩どんなきっかけがあれば拠点に行ってみたいと思いますか？
◆困ったときの対処法
⑪困ったことがあるとき、どうしていますか？(3つまで選択)
◆校内カフェについて
⑫入学前から校内カフェがあることを知っていましたか？ ⑬どこで知りましたか？ ⑭校内カフェで楽しみにしていることはなんですか？ ⑮校内カフェがあつて「よかったな」と思えることはありますか？ ⑯校内カフェで「もっとこんなふうになつたらいいな」と思うもの・ことはありますか？(自由記述)
◆大人への声
⑰大人に言いたいこと(自由記述)

(3)対象

横浜市立高校 校内居場所カフェ実施校 合計 1,773 人(サンプル目標数:500)

※全体生徒数は 2024 年 5 月 1 日時点

(4)回答結果

3校合計 689 人

横浜市立横浜総合高等学校 43%(436 人/1,012 人)

横浜市立戸塚高等学校定時制 82%(51 人/62 人)

横浜市立みなと総合高等学校 29%(202 人/699 人)

(5)期間

2024 年 11 月 8 日~2024 年 12 月 24 日

(6)調査方法

オンラインフォームによるアンケート調査。各学校に依頼し、授業中またはカフェ運営時に実施。

2. 調査の結果

◆基本属性

①居住区

	横浜総合高校 (南区)	戸塚高校定時制 (戸塚区)	みなと総合高校 (中区)	全体
鶴見区	25	0	21	46
神奈川区	33	0	15	48
西区	9	0	4	13
中区	20	0	5	25
南区	94	7	12	113
港南区	28	4	17	49
保土ヶ谷区	20	0	14	34
旭区	10	4	6	20
磯子区	40	0	11	51
金沢区	26	0	10	36
港北区	12	0	6	18
緑区	8	0	10	18
青葉区	8	0	4	12
都筑区	15	0	10	25
戸塚区	37	22	18	77
栄区	13	4	6	23
泉区	8	9	12	29
瀬谷区	4	0	2	6
横浜市外	26	1	19	46
	436	51	202	689

②学年

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
1年生	165	14	83	262
2年生	144	17	94	255
3年生	106	15	25	146
4年生	15	3	0	18
5年生	2	2	0	4
6年生	4	0	0	4
	436	51	202	689

③通学手段

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
徒歩、自転車、電車、バス	2	0	0	2
徒歩、自転車、電車	6	0	4	10
徒歩、自転車、バス	0	0	0	0
徒歩、電車、バス	14	4	13	31
自転車、電車、バス	2	0	2	4
徒歩、自転車	5	4	0	9
徒歩、電車	42	5	45	92
徒歩、バス	8	0	2	10
自転車、電車	14	3	18	35
自転車、バス	4	0	0	4
電車、バス	61	4	16	81
徒歩	44	11	5	60
自転車	25	6	3	34
電車	173	13	87	273
バス	36	1	7	44

◆居場所について

④居場所だと感じるどころ(複数選択可)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
家(普段寝起きをしている場所)	387	48	188	623
祖父母・親戚の家	74	9	51	134
友達の家	56	6	28	90
恋人の家	27	2	12	41
学校(教室)	86	16	81	183
学校(校内カフェ)	47	5	13	65
学校(図書室)	45	4	23	72
学校(保健室)	18	5	14	37
学校(部活)	33	10	52	95
アルバイト先	45	2	29	76
図書館	29	3	12	44
地区センターなどの公共施設	10	1	3	14
青少年の地域活動拠点	8	1	9	18
習い事・塾	27	1	27	55
商業施設	15	1	7	23
公園・街中	46	4	14	64
自然(海・山・川など)	61	7	21	89
SNSやゲームなどのオンライン空間	127	15	33	175
その他	11	3	0	14
ない、特になし	6	1	0	7

- 質問に対して、いずれかの場所を選択または自由記述した生徒は 682 人(99.0%)、「特になし」「ない」と自由記述した生徒は 7 人(1.0%)であった。
- 全体の結果では、生徒の90%が「家」を選択した(623 票)。次いで、「学校(教室・校内カフェ・図書室・保健室・部活の合計)」「(452 票)」、「SNSやゲームなどのオンライン空間」(175 票)と続いた。「その他」では、「誰もいない場所」や「近所のカフェ」、「地域ケアプラザ」や「親友の隣」などが挙げられた。
- 学校ごとの結果では「家」が各校最も多かったが、横浜総合高校では4人に1人が「SNSやゲームなどのオンライン空間」を選択し、「学校」よりも多かった。
- 「家」を選択しなかった生徒 66 人が居場所だと感じる場所は「SNSやゲームなどのオンライン空間」(19.0%)、「学校」(18.0%)、「友達・恋人の家」(11.0%)、「アルバイト先」(10.0%)などを選択している。

⑥ (④について)なぜそのように思うか(複数選択可)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
自分らしくいられる	301	35	158	494
いつでも行きたい時に行ける	217	25	100	342
友人と一緒に過ごせる	135	21	83	239
悩みごとの相談などを話せる人がいる	101	16	54	171
新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる	80	11	34	125
その他	38	2	10	50

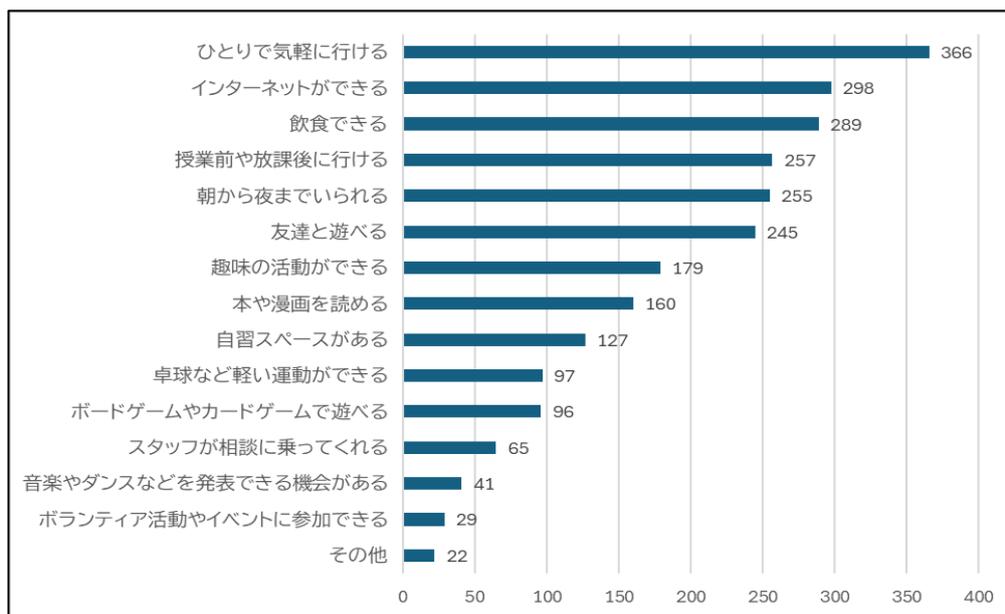
▽その他の回答(自由記述)

楽しい、寝れる、落ち着ける、作業ができる、一人の空間がある、静か、安心する、怖いものが何も無い、ぼーっとできる、行くのが辛い、恋愛などのもつれがない、誰にも合わせる必要が無い、何もなくてもいい、食べ物がある、ストレスの発散場、自分が居て良い理由がある など

- いずれの高校も「自分らしくいられる」「いつでも行きたい時に行ける」「友人と一緒に過ごせる」「悩みごとの相談などを話せる人がいる」の順に回答が多かった。それぞれ、ありのままを受け入れてもらえる環境があること、自分の自由な時間にアクセスできること、他者といることで社会的なつながりが持てることが居場所に必要な要素であると考えられる。

◆家や学校以外の「居場所」となる“施設”について

⑥「居場所施設」にあつたらいいと思う機能・役割について(3つまで)



▽その他の回答(自由記述)

個室がある、体育館が使える、仮眠できる、1人でいられる など

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
授業前や放課後に行ける	160	20	77	257
朝から夜までいられる	171	11	73	255
ひとりで気軽に行ける	237	23	106	366
友達と遊べる	154	21	70	245
本や漫画を読める	102	14	44	160
ボードゲームやカードゲームで遊べる	63	13	20	96
インターネットができる	199	22	77	298
飲食できる	184	17	88	289
スタッフが相談に乗ってくれる	40	8	17	65
ボランティア活動やイベントに参加できる	20	4	5	29
自習スペースがある	79	10	38	127
音楽やダンスなどを発表できる機会がある	25	2	14	41
卓球など軽い運動ができる	60	7	30	97
趣味の活動ができる	119	16	44	179
その他	18	2	2	22

⑦ 学校別

- いずれの高校でも「ひとりで気軽に行ける」が 14.5%と最多回答となっている。
- フリーWi-Fi などインターネットに接続できる環境や、調理ができるスペースがあることも、行ってみたいと思える機能のひとつであるといえる。

⑧ 「居場所施設」はどんなところにあったら嬉しいか(1つのみ)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
家の近く	196	21	85	302
学校の近く	122	17	68	207
通学経路上	38	6	28	72
家から離れた場所	31	4	4	39
塾やアルバイト先の近く	6	1	4	11
通学・通塾・通勤などでよく利用する駅の近く	26	1	11	38
商業施設やショッピングセンター内	7	0	2	9
商店街の中	3	0	0	3
その他	7	1	0	8

- いずれも高校でも「家の近く」「学校の近く」とそれを結ぶ「通学経路上」を選択した生徒が多かった。
- 戸塚高校定時制に通う生徒の60%は戸塚区や泉区に住んでいるが、青少年の地域活動拠点は区内に設置されていない。施設の立地は学校や家からアクセスしやすい場所にする 것도重要である。

【クロス集計の結果】

居住区×①「居場所施設」はどんなところにあったら嬉しいか×②あったらいいと思う機能・役割

居住区	①どんなところにあったら嬉しいか	②あったらいいと思う機能・役割
青葉区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
旭区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
泉区	家の近く	インターネットができる
磯子区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
神奈川区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
金沢区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
港南区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
港北区	学校の近く	インターネットができる
栄区	学校の近く	ひとりで気軽に行ける
瀬谷区	学校の近く	ひとりで気軽に行ける、飲食できる
都筑区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
鶴見区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
戸塚区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
中区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
西区	学校の近く	友達と遊べる
保土ヶ谷区	家の近く	飲食できる
緑区	家の近く	ひとりで気軽に行ける
南区	家の近く	ひとりで気軽に行ける

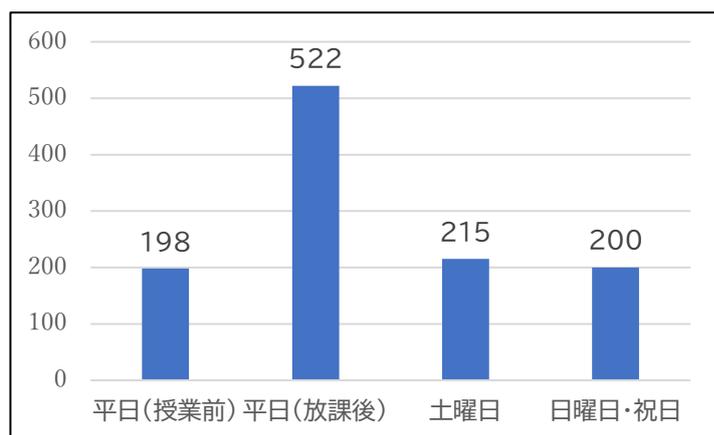
- 「家の近く」にあり「ひとりで気軽に行ける」ことが希望として最多(11/18区:61%)であった。青少年の地域活動拠点だけでなく、既存の市民利用施設を青少年の居場所にしていくにあたり、ひとりでも気軽に立ち寄れるきっかけをつくることや、家以外で体験できるイベントなどを企画することが望ましい。

⑨「居場所施設」にはどんなスタッフがいたら嬉しいか(1つのみ)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
一緒に遊べる	79	12	27	118
気軽に話ができる	163	24	83	270
相談に乗ってくれる	33	4	11	48
勉強を教えてくれる	21	3	15	39
(一人でいても)そっとしておいてくれる	118	6	64	188
イベントなどに誘ってくれる	13	0	1	14
その他	9	2	1	12

- いずれの高校でも「気軽に話ができる」スタッフがいたら嬉しいという回答が最も多かったが、横浜総合高校とみなと総合高校は「(一人でいても)そっとしておいてくれる」が次に多かった。
「そっとしておいてくれる」ことが重要でも、スタッフが時折声をかけることにより、施設が単なる「物理的な場所」ではなく、「自分にとって意味がある場所」になっていくと考える。
- また、戸塚高校定時制では、2番目に「一緒に遊べる」スタッフがいたら嬉しいという回答が挙げられた。高校生が興味を持っていることや趣味に対して関心を持ち、それに対して積極的に話を聞いたり一緒に参加したりできるスタッフも求められる。

⑨「居場所施設」にはいつ行きたいか(複数選択可)



⑩ 学校別

	横浜総合高校(3部制)	戸塚高校定時制(夜間)	みなと総合高校(全日制)	全体
平日(授業前)	139	31	28	198
平日(放課後)	325	22	175	522
土曜日	122	20	73	215
日曜日・祝日	126	19	55	200

◆「青少年の地域活動拠点」について

⑩どんなきっかけがあれば拠点に行ってみたいと思うか(1つのみ)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
友達からの口コミ、誘い	237	34	135	406
学校で拠点のチラシをもらう	59	9	23	91
場所や様子が拠点のホームページでわかる	50	1	16	67
駅や公共施設・電車内で拠点の広告を見る	18	1	3	22
YouTube や Instagram で拠点の広告を見る	46	2	22	70
広報よこはまで拠点の記事を見る	7	0	2	9
その他	19	4	1	24

▽その他の回答(自由記述)

学校のみんで一回行ってみる、気分や暇つぶし、化学実験、なにか貰えるなら(1000 円分ポイントカード)、もっと近くにあれば、好きなボードゲームなどがある、ご飯が食べれる、近くてひまで面白そうと思ったら、行ってみたいとは思わない、行かない(でいい)

- 友人からの口コミ・誘いや学校でチラシを受け取る方が、広告やオンライン上のレビューよりも信憑性が高いことがわかる。校内カフェを通じてチラシを配布し、拠点がどのような場所かを周知することも有効であると考えている。

◆困ったときの対処法

⑪困ったことがあるとき、どうしているか。(3つまで)

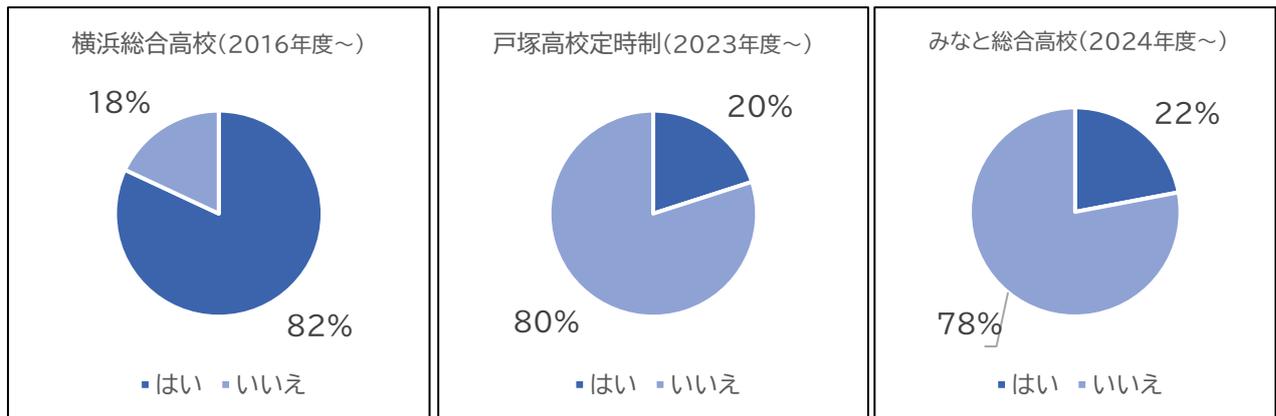
	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
A 親に相談する	214	22	121	357
A きょうだいに相談する	60	5	32	97
A 祖父母・親戚に相談する	16	1	9	26
A 友達や恋人に相談する	173	19	113	305
A 学校の先生に相談する	61	14	31	106
A スクールカウンセラーに相談する	22	10	7	39
A 塾や習い事の先生に相談する	11	0	4	15
A 校内カフェのスタッフに相談する	11	0	1	12
A 相談窓口で相談する	8	1	4	13
B SNSでつぶやく	63	2	23	88
B ネットで検索する	114	12	55	181
C 一人で解決する	196	19	62	277
D 何もせずにいる	92	8	28	128
E そう思うことがない	31	0	1	32

分類：A「誰かに相談する」 B「オンライン上で解決」 C「1人で解決」 D「何もしない」 E「そう思うことがない」

- いずれの高校でも、「親に相談する」「一人で解決する」「友達や恋人に相談する」が上位3つに挙がっている。
- 対処ごとに分類すると、A「誰かに相談する」(57.9%) B「オンライン上で解決」(16.1%) C「1人で解決」(16.5%) D「何もしない」(7.6%) E「そう思うことがない」(1.9%)となった。

◆校内カフェについて

⑫入学前から校内カフェがあることを知っていたか。



⑬校内カフェをどこで知ったか。(1つのみ)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
学校説明会	216	12	16	244
学校のホームページ	83	3	10	96
中学校の先生からの紹介	17	0	4	21
家族からの紹介	24	1	3	28
友人に誘われた	16	2	23	41
ネット検索	12	0	1	13
無回答	57	31	142	230
その他	11	2	3	16

⑭校内カフェで楽しみにしていることはなにか。(3つまで)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
ごはんやお菓子を食べる	285	29	160	474
自由に過ごす	169	17	62	248
友達とおしゃべりする	160	30	90	280
カフェのスタッフと話す	70	15	26	111
カフェに行ったことがない	48	6	9	63
ワークショップ(イベント)に参加する	18	2	18	38
その他	9	0	0	9

- いずれの高校も「ごはんやお菓子を食べる」「自由に過ごす」「友達とおしゃべりする」が上位に挙げた。

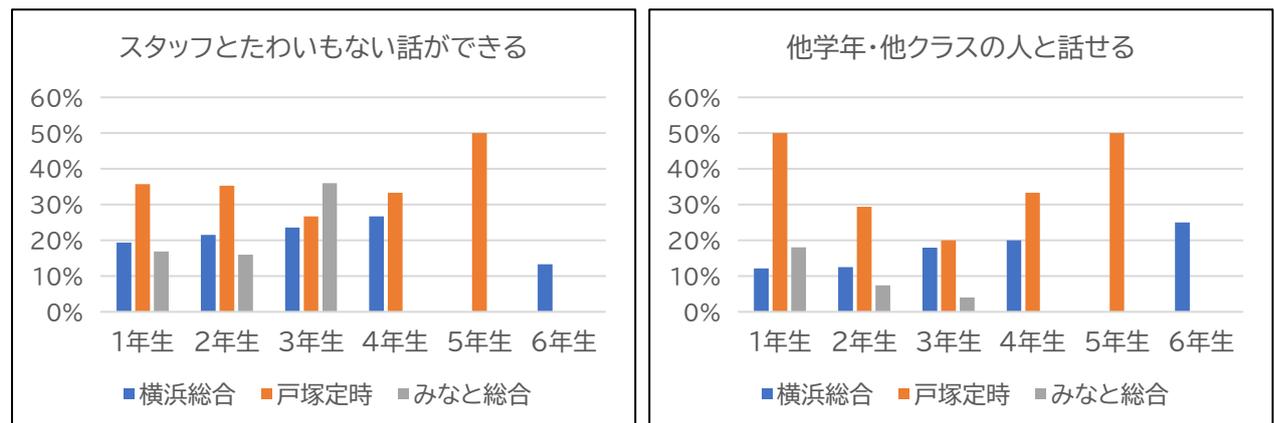
⑮「校内カフェがあってよかった」と思えることはあるか。(3つまで)

	横浜総合高校	戸塚高校定時制	みなと総合高校	全体
ごはんやおやつが食べられる	273	20	132	425
ときどき寄付物品がもらえる	133	13	73	219
気分転換ができる	128	12	61	201
スタッフとたわいもない話ができる	94	17	38	149
他学年・他クラスの人と話せる	61	17	23	101
学校の先生とも親しく話せる	44	15	20	79
真剣に話を聞いてもらった	20	0	6	26
その他	17	4	0	21
進路の相談ができた	15	0	5	20
悩みを話せた	14	0	4	18
ボランティア活動やイベントに誘ってもらった	13	1	13	27

- いずれの高校も「ごはんやおやつが食べられる」と回答した生徒が多かった。学校という安心して過ごせる環境の中、無料で飲食できることや寄付物品を持ち帰ることなど生理的欲求を満たせるだけでなく、スタッフや他学年・他クラスの人と出会い、つながる場として社会的欲求を満たせる場となっている。

【クロス集計の結果】

「校内カフェがあってよかった」と思えること×学年ごと



- 戸塚高校定時制は2023年度、みなと総合高校は2024年度から開始しており、かつ月1回の開催となるため学年ごとに結果が異なるが、2016年から開始している横浜総合高校は学年があがるにつれて「スタッフとたわいもない話ができる」「他学年・他クラスの人と話せる」割合が高くなっている。入学時から卒業まで、月2～3回のカフェを継続して開催していることでカフェが定着し、スタッフや他学年・他クラスの人との関係性ができていることがわかった。

⑩校内カフェで「もっとこんなふうになったらいいな」と思うもの・ことはあるか。

- 飲食について
お菓子・軽食の種類や量の充実、持ち帰りができるようにしてほしい
- カフェの空間について
1人で座れるスペースの確保、ボードゲームやカードゲームの充実、行列の解消
- その他
カフェの開催頻度を上げる、夏休みや冬休みの営業、勉強を教えてください、部活動がない日の開催

3. まとめ

(1) 高校生の居場所の現状

■「居場所がある」と感じている生徒は 99%、そのうち 90%が「家」を居場所だと感じている。
また、困ったときには「誰かに相談する」ことが多い。

- 横浜総合高校、戸塚高校定時制、みなと総合高校の3校で、居場所があると感じている生徒は 99.0%、ないと感じている生徒は 1.0%いる。
- 居場所があると感じている生徒の90%が「家」を選択。次いで「学校(教室・校内カフェ・図書室・保健室・部活の合計)」が 66%、「SNSやゲームなどのオンライン空間」は 25%となっている。
- 居場所だと感じる場所について、いずれの高校も「自分らしくいられる」「いつでも行きたい時に行ける」「友人と一緒に過ごせる」「悩みごとの相談などを話せる人がいる」の順に回答が多かった。
- 困ったときの対処法として、「誰かに相談する」(57.9%)、「オンライン上で解決」(16.1%)、「1人で解決」(16.5%)、「何もしない」(7.6%)、「そう思うことがない」(1.9%)となった。

(2) 居場所に求めること

■居場所となる施設は「家の近く」にあり「平日の放課後」に空いていて、そこにはひとりで気軽に「行ける」こと、「いつでも気軽に話せるスタッフ」がいることが望ましい。

- 「居場所施設」にあつたらいいなと思う機能・役割について、「ひとりで気軽に「行ける」」が 53%、「インターネットができる」が 43%、「飲食ができる」が 42%となった。
- 「居場所施設」は、「家の近く」(40%)「学校の近く」(30%)とそれを結ぶ「通学経路上」(10%)にあると嬉しい。また、「家の近く」にあり「ひとりで気軽に「行ける」」ことが居場所につながりやすい条件となる。
- 居場所施設にいるスタッフは、「いつでも気軽に話せる人」がいることが望ましい。

(3) 青少年の地域活動拠点の認知度向上

■高校生に「青少年の地域活動拠点」への利用を促進するには、友人からの口コミや誘いが最も効果がある。

(4) 校内カフェがある意味

■校内カフェは「軽食やお菓子を食べる」「友達とおしゃべりする」ことができる場であることを入口に、「気分転換」ができた、「スタッフとたわいもない話ができる」場になっている。

- 2016 年度から実施している「横浜総合高校」では、80%の生徒が学校説明会や学校のホームページを通じて入学からカフェがあることを知っている。
- 校内カフェでは「軽食やお菓子を食べる」こと(39%)や「友達とおしゃべりする」こと(23%)が楽しみになっている。
- 校内カフェがあってよかったと思えることの中で、「スタッフとたわいもない話ができる」「他学年・他クラスの人と話せる」場にもなっている。

(5) 今後に向けて

今回のアンケート調査では、校内カフェを実施している3校の生徒を対象に実施したが、3部制定時、夜間定時、総合学科という特色をもち、学校や家庭での過ごし方や放課後の時間帯も生徒によってそれぞれ異なる。

「自分らしくいられる場所」を家や学校以外の居場所施設でつくるには、飲食ができたりインターネットが使えるという物理的な機能だけでなく、校内カフェのように気軽に話せるスタッフとの交流や気分転換となる場も重要であり、これらの要素が組み合わさることで、より充実した居場所が提供され则认为。

青少年の地域活動拠点や市民利用施設などの地域資源を活用した「青少年が居場所につながりやすい環境づくり」を進めるにあたり、引き続きインタビューや今回のアンケートを通じて青少年の声を聞き、反映していきたい。